

あると定式化されています。

実践部隊からは、高齢者の「溜まり場」づくりとさまざまな自主活動から「高齢者協同組合」へというみずみずしい提案が行なわれ（鍛谷宗孝会員）、高齢者協同組合を支えるものとして「高齢者を主体にその自立を援助する」という自覚を持って、専門性を高める労働者協同組合ヘルパーの意義が強調されています（森山千賀子会員）。自ら民間保険会社の勤務経験を持つ前川禮太郎会員は、公社による有料ボランティアと民間介護サービスの問題点を指摘して、高齢者協同組合づくりの動きに参加されています。

## VIII. 地域・公共性の再生と協同

労働者協同組合における就業権や自己実現的な労働の実現、高齢者協同組合における就労保障と福祉の創造、子育てコープにおける新しい子育て要求の人権化など、協同組合の新しい動向は、地域と公共性の再生と密接に結びついています。

佐貫浩会員は、「地域」を自然的・社会的連関を住民の自治のもとで自主的にコントロールしていく場と規定して、新しい協同と公共の探求を説かれています。

加藤憲仁会員は、革新自治体発展の一つの土台として、労働者協同組合と「公・協複合体」に注目されています。

公共と協同の関連を解きほぐしていくことは、労働者協同組合や「新しい協同組合」の法制要求にとっても、差し迫った重要なテーマになっています。

## IX. 新しい協同組合法制への要求

労働者協同組合全国連合会のICA加盟を一つの契機として、労働者協同組合と「新しい協同組合」の法制化と政策的位置付けについての要求が本格化しつつあります。

荒木昭夫会員は、児童演劇という人間発達の仕事にふさわしい法人格や税制についての切実な要求を述べられています。

石見尚会員は、協同組合セクターへの社会的合意を確立する点に、現在の協同組合法制改革の一つの課題を据えられています。

山岡英也会員などから提起されている「協同組合＝営利企業」説の検討を含めて、実践の立場に立った協同組合の理念型が十分議論される必要があると言えるでしょう。

# 協同総合研究所 1993年度事業計画

## I. 研究活動

### 1. 年間基本研究

①年間基本研究テーマを「新しい協同組合——その特質と発展方向」とします。

②日本における労働者協同組合、および様々な「新しい協同組合」の本格的発展に向けて、その意義と発展方向を明確にするとともに、来年（94年）5月CICOPA世界大会、95年ICAマンチェスター大会にあい呼応して、労働者協同組合と「新しい協同組合」の原則論議に積極的に参加します。

③日本と世界の「新しい協同組合」の現状／その企業的特質（協同組合所有、協同組合労働、参加民主

主義、協同組合経営、資本形成) / 経済民主主義、「社会的経済」との関連 / 新しい協同組合の公共性、「公・協コンプレックス」 / 法制の動向とわれわれの要求、などについて検討を加えていきます。

④ 9月ICA中央委員会での議論と情報の紹介、CICOPA世界大会への問題提起とその会議内容と情報の紹介を介しながら、ワーキングペーパー、資料集および単行本の発行に結実させます。

## 2. 課題別研究

### ① 労働組合運動と労働者協同組合

※労働者協同組合連合会と共催で7月25、26日に「労働組合問題交流会」を開きます。

※労働組合部会とも協力して、集会ないし連続シンポを行ない、報告・資料集にまとめます。

### ② 農業における「新しい協同組合」の可能性

※農業における生産協同組合や、農業労働者協同組合、農村労働者協同組合の可能性を検討するシンポジウムを企画します。

### ③ 労働者協同組合の現状と理論

※黒川理事長の『いまなぜ労働者協同組合なのか』、および『ワーカーズ・コープの挑戦』の出版を記念して、いくつかの地域でシンポジウムないし学習会を行ないます。

### ④ 国際協同組合情報

※学生、若手などで、世界の協同組合運動の原文資料を分担して翻訳、研究を企画します。

### ⑤ 高齢者協同組合、福祉サービス協同組合

※労働者協同組合の高齢者協同組合づくりと連携して、地域での政策を検討します。

※労働者協同組合ヘルパー養成講座(有料)を実施し、教育の基本方針とテキストをまとめます。

## 3. 地域協同集会、研究会など

① 北海道集会に続いて、青森(10月)、長野(11月)の地域協同集会を成功させます。長野の集会は、地域づくり政策の発表と討論の場として準備されています。

② 労働者協同組合の進めている映画『病院で死ぬということ』の自主上映運動に、全面的に協力して、各地域の自主上映とともに、当面50大学で「映画と講演(ないしシンポジウム)」を成功させます。

③ 労働者協同組合のブロック会議や映画の取り組みなどの機会に、会員も参加し、高齢者協同組合づくりや協同の地域づくりについて話し合える場をつくります。

④ 基本研究会、課題別研究会を適宜、東京以外の地域で開催し、地方会員の参加の機会を保障します。

## 4. 94年協同集会について

① 「いま『協同』を問う」94年集会を、11月に名古屋で行ないます。

② 名古屋勤労市民生協をはじめ、「協同」運動の地元先進地の団体、個人の参加で実行委員会方式によって大きく成功させていただきよう、要請します。

## II. 受託研究・教育

### 1. 労働者協同組合連合会からの受託研究

※次の課題について連合会と協議の上、会員の参加を得て、委託研究にまとめられるようにします。

① 労働者協同組合テキストづくり

② 労働者協同組合法制の考え方と資料

- ③労働者協同組合原則——国際情報紹介と日本からの提起
- ④農業労働者協同組合の意義と可能性
- ⑤高齢者協同組合と福祉サービス労働者協同組合
- ⑥ごみ・資源リサイクル政策（資料と改訂）

## 2. 地域事業団からの受託研究

- ①北海道：根釧地区の高齢者事業団／季節労働者の就業保障と労働者協同組合
- ②兵庫：兵庫における全日自労の高齢者福祉の実践と高齢者協同組合の展望
- ③京都：民主的改革の実践と労働者協同組合
- ④長野：協同による地域づくり政策（高齢者協同組合など）

## 3. 労働者協同組合グループの研究・開発

- ①福祉機器の開発（音声体温計など）
- ②国労闘争団の労働者協同組合の事業開発

## 4. 自治体・協同組合など

- ①労働者協同組合の「6～8月行動」と連動し自治体・地域をまわり受託研究の可能性を追求します。
- ②そのために研究所紹介のパンフレットを作成します。
- ③実績のある民主的企業と提携して自治体等から調査・研究の受託を追求します。事業協同組合など法人格を検討します。

## 5. 労働者協同組合教育

- ①労働者協同組合連合会の委託を受けて、労働者協同組合テキスト第1次案を作成します。
- ②今秋から、各ブロックで毎月、学習会を行ない、参加者の意見を取り入れながら、来年2月にテキストを完成し、正式の単行本とします。
- ③会員の中で可能な方に講師陣に加わっていただきます。
- ④学習情報・資料を適宜発行します。

## 6. 「協同」講座

- ①エル・コープ（千葉）の協同組合論講座を成功させ、モデルとします。
- ②「人間発達」の視点と労働者協同組合の方向を踏まえた、ヘルパー講座を実施します。

## Ⅲ. 国際活動

- 1. 世界の労働者協同組合および「新しい協同組合」との交流を進めます。
- 2. 韓国の協同組合、労働運動・労働者協同組合との交流を進めます。
- 3. フィリピンの協同組合研究者との研究交流を進めます。（別紙）

## Ⅳ. 所報『協同の発見』を中心とする会員組織活動

- 1. 『仕事の発見』誌の研究所編集の打ち切りについて
- ①事業報告の中で述べたように、『仕事の発見』誌については、研究所が編集し、会員に会費の中から

送付する現状を続けることが困難となりました。

②所報『協同の発見』を毎月送付すると、それだけで会員の会費分が使い果たされ、さらに『仕事の発見』を送付することは、財政的に困難となりました。(連合会との関係でも、『仕事の発見』の発行費用を連合会が負担し、研究所は編集業務請負の代わりに現物を支給され、会員に送付するという不正常的なあり方が続いていました)

③『仕事の発見』誌の中には、[労働者協同組合員向けの大衆的理論・学習誌]と、[労働者協同組合を含む広範な「協同」についてのより高度な理論・情報誌]という二つの要素が並存していましたが、研究所の確立とともに、後者の要素は所報『協同の発見』の中に盛り込まれるようになってきました。

④『仕事の発見』の編集業務を連合会に戻し、会員への会費分からの送付は92年度をもって打ち切り、会員の受け取る定期刊行物は所報『協同の発見』とさせていただきます。

## 2. 所報『協同の発見』を中心とした会員活動

①会員による協同組合型研究所の機関誌として『協同の発見』を重視して、月刊化し、内容を充実させます。

②新しい「協同」への模索・実践と研究・理論が出会う、討論と創造の広場とします。質問・疑問、問題意識や、批判・意見を積極的に集中して下さい。

③会員の著作や研究エッセンスの紹介、運動情報などを『協同の発見』に掲載し、これについての詳しい情報を希望する会員にはワーキング・ペーパーや抜き刷り、運動資料を実費で配付します。会員は積極的に研究成果や情報を研究所に集中して下さい。

④編集委員会を、常任編集委員と協力編集委員で構成し、適宜、地域特集を組んで、会員が参加できる所報とします。

## 3. 会員の力でさらに会員拡大を

①個人会員500人、団体会員50団体を達成します。

②会員の拡大によって、所報の質的量的発展など、会員が研究所から享受できるサービスがより豊かになり、「協同」の探求がより豊富なものになることは明らかです。会員の力で会員拡大をすすめ、「協同総合研究」を大きく発展させましょう。

---

---

# 協同総合研究所 役員名簿

---

---

【理事長】	黒川 俊雄 (再任、神奈川県・桜美林大学教授)
【副理事長】	角瀬 保雄 (再任、東京都市部・法政大学教授)
	勝部 欣一 (再任、東京都区部・日本生活協同組合連合会参与)
	中西 五洲 (再任、三重県・日本労働者協同組合連合会名誉理事)
【専務理事】	菅野 正純 (再任、東京都区部・協同総合研究所専務理事)
【事務局長】	広瀬 謙一 (再任、東京都区部・協同総合研究所事務局長)
【常任理事】	飯島 信吾 (再任、東京都区部・シーアンドシー代表)
	坂林 哲雄 (新任、東京都市部・日本労働者協同組合連合会センター事業団事務局長)